

特別支援教育の担当者実践交流サークル 第2水曜日19:00~20:30 参加費は無料です。

会場はサポートハウス「わにの家」 第2ハウス（武蔵小杉駅下車 徒歩10分）です

○ 2月は8日に行いました。3月はお休みです。

◇ 1月の報告 ◇

久々に教育関係者以外の方の報告を聞きました。「発達障害者に快適な旅を JAL・中央大学と共同プロジェクト」に関わられたパイロットからの報告です。

飛行機でシートベルトが掛けられなくてパニックになった発達障害の方がいて離陸できなかったケースがあったことが企画の動機。内容は未知の体験に弱い人に事前に2回に涉って空港や搭乗手続き、機内の様子や離陸の体験等をしてもらい、3回目に山形空港まで飛行というものです。この企画を計画する段階から中央大学教授、空港関係者、精神科の医師等が関わって検討を重ねているそうです。事前体験の2回にはたくさんの方が参加。最終的には4家族が搭乗し、目的地の山形空港では高校生も関わり歓迎レセプション。スノードームのプレゼントをもらったりして楽しんだとのこと。こうした障害の特性に配慮した取り組みが広まり、誰でも普通に安心して社会参加が出来るようになるといいですね。

次に、場面緘黙の子どものことが話題になりました。学校ではほとんど話はしないけれど家庭や親しい仲間の間では普通に会話をしているそうです。無理に話させようとするよりは、学級がお子さんにとって居心地の良い場所になるようその子が出来る活動や答えられそうな設問を準備して焦らず焦らせず馴染んでもらうことが良いのでは？と話し合いました。通常級は1年ごとに担任や学級の構成メンバーが替わるので信頼関係を築くのも大変ですね。先生がSCに相談してみるのもよいのではないのでしょうか。将来は？との質問に担任中は場面緘黙だったお子さんが就職・結婚し、今も交流しているという元教師の報告もありました。

月刊「みんなのねがい」 2月号 (715円 送料79円)

特集＝映画2023冬

- ・映画の魅力を伝える／LiLiCo
- ・チョコレートに重ね合わせた思い／鈴木祐司
- ・誰もが映画を楽しめる映画館
／平塚千穂子(シネマ・チュプキ・タバタ)
- ・「映像民俗学」という新たな視点でドキュメンタリーを追求する／今井友樹(工房ギャレット)
- ・私に翼を授けてくれた「バーディ」／武藤素子
- ・連載者に聞く！私の一本

人生を変えたあの作品

発達の中の煌(きら)めき

第1部 障害のある子ども・なかまの発達

第11回 自分を客観的にみつめ出す「九歳の節」
／白石正久(龍谷大名誉教授) 白石恵理子(滋賀大)

仲間と親とあゆみ続けて

－32年間の障害者福祉実践

第11回 相談支援の現場から
／佐藤さと子(ゆたか希望の家 相談支援事業所)

基礎から学ぶ 障害と医療

第2回 回復に向かう良循環サイクル
精神障害②／野末浩之
(横浜勤労者福祉協会うしおだ診療所・精神科医)

ニュースナビ

「特別支援学級及び通級による指導の適切な運用について」文科省4・27通知の問題点

／山林哲(大阪教職員組合障害児教育部長)

※ 購読ご希望の方はわになろう会 伊藤まで

「映画のつどい」3月上映の『星に語りて』紹介

2011年3月11日に起きた「東日本大震災」、この日の出来事は鮮明に覚えています。東横線が不通になり、わにの家の利用者とスタッフが9時間後の深夜にやっと帰り着きホッとしたこと。ビルの15階から階段をおり7時過ぎにわにの家にたどり着いたお母さんのこと。信号が動かない中こわごわと運転した車移動。スタッフの実家が被災し1週間も両親の消息が分からず心が痛んだこと等々、被災地から遠い川崎でさえそうでしたから現地の方達は？ そんな思いで今回上映予定のDVDを観ました。

映画は被災後の障がいのある方達の当時の状況と支援に立ち上がった全国共同作業所連絡会(きょうされん)所属の障害者支援施設の取り組みの物語です。各地の避難所を訪ねても障がい者の姿をほとんど見かけないことに疑念を抱いたことがこの物語の発端です。調べてみると、周囲への気兼ねや本人が慣れない場所にはいられない等の理由で車中泊をしていたり、壊れた家に危険承知で留まっていたりして支援が届かなかった人や家族が多数。その方達をどのように支援していったかは映画を見てください。企画責任者の藤井克徳さんは「『忘れないこと』が最大の支援でありその中に深い連帯が育まれるのでは」と記されています。震災被害を風化させないで、災害に備えるためにぜひ多くの方に見てほしいと思いました。